

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570201048		
法人名	社会福祉法人 報謝会		
事業所名	グループホームミュージズの空 庄内	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県都城市庄内町8122番地1		
自己評価作成日	平成26年12月30日	評価結果市町村受理日	平成27年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanistrue&amp;liyosvoCd=4570201048-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanistrue&amp;liyosvoCd=4570201048-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地が広いので、自由に敷地内を散歩できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、利用者だけでなく、家族との対話も重視しており、来訪の際には積極的に情報の交換を行っている。利用者の意向に少しでも沿えるように、必要に応じて家族と連携を図ることで、外出やなじみの関係の継続につながるよう励んでいる。また、特別な楽しみへの外出支援として、毎月1回は季節に応じた花見や外食などを企画することで、理念にもうたわれている笑顔につながるケアを実践している。居室の温度や湿度もよく配慮されており、利用者の健康に目が向けられている。また、看護師を1名配置し、医療機関と連携を図りながら、看取りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ミューズの空 庄内 1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念及び事業所理念を朝礼時に復唱し、個々が実践に繋げるよう努力している。		朝の唱和以外に、理念の書かれた紙を名札と共に携帯することで、意識できるように取り組んでいる。しかしながら、設立当初に掲げた理念であり、現在の職員間でケアの振り返りを行う際などに話し合う機会が少ない。	現在の職員で理念について話し合い、必要があれば見直しを行うことで、日々のケアの振り返りや理念を意識したケアにつながるよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の訪問や中学生のボランティア活動の受け入れを通じての交流は出来ているが、日常的な交流は無い。		小学生の訪問や時には農作物の差し入れなど、地域との交流に取り組んでいるものの、日常的な交流までには至らず、門扉を閉めているときもある。	地域の行事や活動などの情報を基に、職員、利用者が何らかの形で参加したり、また、ホームに来てもらう機会を作ったりするなど、さらに地域に密着したホームになるように更なる取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて活かせる機会がない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ユニットごとに行える内容に関しては、すぐに取り組めるよう計画・実行しているが、事業所として動かないといけない事に関しては行えていない。		行政、家族や地域、利用者からそれぞれ代表者が出席しており、必要に応じて出席者から意見をもらうように努めている。ホームからの情報提供も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、現状や取り組みについて伝え、市からの情報や助言をいただき活かしている。		市への報告を行い、法改正に関することを実際に質問したりするなど、情報や意見交換に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常生活の中で、個々の職員がその時々の中で身体拘束か否かを考え、他の職員と相談しながら、拘束しないケアに取り組んでいる。		時折、会議で取り上げることで、職員がそれぞれ意識付けられるよう取り組むとともに、勤務体制や利用者の状況に応じて、職員が互いに相談しながら、対応を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士がお互いに注意し合い、虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	ミューズの空 庄内 1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は研修等にて学んでいるが、殆どどの職員が学ぶ機会がない為、理解出来ていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、家族と一緒に契約の内容を確認し合い、その場で不安や疑問点を尋ね、説明・理解してもらっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に利用者の現状を報告し、相談・方向性を話し合っている。		料金の支払いの際などに、家族と直接話をし、意見をもらうことで、一人ひとりの利用者のケアや居室の物品の配置などを調整している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	4月からの法改正により、ユニットごとの夜勤体制になり、職員の補充が無いまま現在に至っているため、職員会議を行う事が出来ない状況である。		管理者は、職員の状況に応じて声を掛けたり、勤務の調整を行うなどの取組を行っている。ただ、個別で話を聞く機会やそれを法人へ報告する機会が少ない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長・管理者等の評価はあるが、職員個々については一部の職員のみで、整備等は行われていない。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	対象となる職員のみで、全員が平等に受けることが出来る機会が設けられていない。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会による研修等が計画されているが、一部の職員のみ参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	ミュージズの空 庄内 1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思伝達可能な利用者に対しては、会話等にて意向や要望を聞いているが、困難な利用者の場合、ADLの状態や行動から汲み取る。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話にて状況を説明し、家族の意向を尋ねている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも利用できるよう、柔軟に対応する。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者というより、家族の一員としての思いで接しています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を月に一回手紙にして、ご家族に届けています。本人の希望が強い時は、電話にて様子を伝え、面会等をお願いしています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族に協力していただき、季節に応じて外出等をお願いしています。可能な場所ならば遠足という形で計画・実施しています。	近所のコンビニやなじみの美容室への外出など、家族の協力を得ながら、関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく個人のこれまでの生活歴を尊重しながら、過度な関わり合いを押しつけないよう、性格等を考慮しながら、支援しています。			

自己	外部	項目	自己評価	ミューズの空 庄内 1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族から(本人を含む)の要望があれば、相談や支援も応じることは可能であるが、今のところ、契約終了後の相談等はない。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の程度にもよるが、本人と共に生活していく中で、会話や行動から、本人の思いや希望をくみ取る努力をしている。		コミュニケーションの中で、意思の決定を尊重し、習字などの趣味活動や居室のレイアウトに生かすことで、意向に沿えるように対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族から昔話等を聞き、その人を知る努力をし、その人を理解し、現状を知るようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが、日常生活の中で現状の把握に努め、知りえた情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にて現状を話し合い、課題としてあがった事について、介護職・看護職の立場から意見を出し合い、ご家族の意向等も配慮しながら、作成している。		利用者を担当する職員が、毎月モニタリングを実施し、介護計画作成に取り組んでいる。会議においても、利用者ごとの状況を踏まえ、職員で話し合う機会を設けている。来訪時を利用し、家族との意見交換を行い、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録及び連絡ノートを作成し、情報の共有をしながら、実践・見直し等に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組む努力はしているが、ご家族の都合、医療関係との連絡等にて、すぐに動けない現状もある。			

宮崎県都城市 グループホームミューズの空庄内(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ミューズの空 庄内 1号館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの美容師さんに、安価で訪問理容をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の下、必要であれば、整形外科・婦人科・精神科等専門の医療機関との連携をもち、支援している。	協力医療機関から月1回、協力歯科医療機関から月2回の往診がある。受診の際はホームの看護師が同行し、連携に努めている。また、日ごろから看護師がかかりつけ医と連絡を取り、適切な医療を受けることができるよう体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職からの情報を看護記録ノートに記入し、担当看護師の出勤時に口頭での説明と共に、伝達・指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師を通じて、情報交換や相談等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意思(思い)を尊重しながら、ご家族へ早い段階から相談し、事業所としてできることを説明し、状況を医師と家族と介護職に説明してもらい、今後の方針を共有している。	ホームは、重度化に関する指針と看取りに関する指針を整備しており、契約の段階から話し合いを行っている。本人、家族の意向に沿えるよう、医療機関と連携し、実際に看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない。 緊急時は看護師と連絡を取り、指示にて対応する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練は行っているが、日中のみで、夜間時の訓練は行っていない。また、地域との協力体制も築けていない。	年に2回の避難訓練を実施しているが、夜間想定訓練や地域との協力関係を構築するまでには至っていない。	地域の消防団や住民へ協力を呼びかけ、災害発生時の協力体制を強化し、また、夜間想定訓練を実施することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	ミュージズの空 庄内 1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の生活歴や性格を本人及び家族からの情報を基に知り、心の負担にならないよう、声かけ・援助を行っている。	職員が担当利用者の人格を把握することで、言葉遣いや話す内容を工夫している。また、状況や場面ごとに接し方を工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行状態により、思いを伝えることが困難な方には、その人の行動や様子、表情から思いを汲み取る努力をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の職員数が少ない為、業務を優先せざるを得ない状況が多々ある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては気をつけているが、おしゃれについてはなかなか支援しきれない。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当ホームは、関連施設の厨房より配食されるため準備は出来ないが、ご飯は毎食毎に炊くので、季節に応じて、炊き込みや赤飯、おはぎ等を作り、楽しんで頂いている。	台拭きやお盆拭きなどのできる活動と一緒にやっている。ときにはボランティアと一緒にやつ作りをしたり、外食も計画することで、食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、食事形態、水分量に関しては、個々の状態等を考慮しながら、支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて、声掛けや一部介助を行っている。歯科医・衛生士による定期訪問治療も行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	ミューズの空 庄内 1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の乏しい利用者の場合は、定期的にトイレ誘導を行っている。 尿意はあるが、失禁の多い利用者の場合は、定期的に声掛けを行う。	尿意・便意の乏しい利用者の場合は、定期的にトイレ誘導を行っている。 尿意はあるが、失禁の多い利用者の場合は、定期的に声掛けを行う。	日々、個別の健康管理表に時系列で排せつ状況を記録し、水分摂取や乳製品、服薬などを調整している。利用者の行動を見て声を掛け、自分でできる方にはそっと見守りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録を通して便秘にならぬよう、便秘薬の調整や腸に良い乳酸品を使ったおやつ等を提供している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングに合わせての入浴は殆んど行っていない。 体調や心理状態によって支援を行っている。	個々の希望やタイミングに合わせての入浴は殆んど行っていない。 体調や心理状態によって支援を行っている。	入浴は、曜日ごとに計画的に行っているが、最低でも週2回は入れるよう、タイミングや声掛けなどを工夫している。ある程度自分でできる方には、見守りを中心に行うなど、個別に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けず、それぞれの就寝時間やその日の体調等に合わせて、休んでもらっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書が定期薬処方時に配布されるので、毎回確認を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな方が多いので、カラオケを設置しています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望に沿っての外出が出来るよう努力しているが、職員数が足りない時などは、日程を変更したりして、外出の支援をしている。	なるべく希望に沿っての外出が出来るよう努力しているが、職員数が足りない時などは、日程を変更したりして、外出の支援をしている。	季節や時間に配慮しつつ、職員間で協力しながら、散歩や買い物での外出を行っている。毎月1回は特別な楽しみの外出ができるよう計画しており、花見や祭りなどに出向いている。	

自己	外部	項目	自己評価	ミューズの空庄内 1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者さんは現金を所持していますが、殆どどの利用者さんが家族の管理になっています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば可能ですが、現在入所中の利用者様からの希望はない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族からの要望もあって、現在は季節の花飾りや小物を飾っている。		季節に応じて室温を設定し、加湿器やこたつを設置するなど、健康にも配慮している。正月やクリスマスなど、時期ごとの雰囲気作りにも取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の席の配置等を工夫している。廊下奥のスペースにソファとテーブルを配置し、いつでも談話を楽しめる空間作りをしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族からの提供がある利用者様のみ行えている。		居室のレイアウトは、一人ひとりの利用者に応じて行っている。湿度や室温に配慮しており、エアコンの設定や洗面台にお湯をためるなどの対応をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーに対応していますが、一人ひとりが安全かつ自立した生活が送れるような工夫はされていません。			